

# 令和6年度花壇管理

中川悠・荒木大蔵・西内良

## 花壇の管理状況

季節ごとの作業概要を記録する。植栽に使用した植物は表1に示す。

### 春季（5月～6月）

大花壇は、アフリカンマリーゴールド、フレンチマリーゴールド、トレニアを使用した。この花壇は、植え付けてから6月上旬頃までは調子良かったが、6月中旬から下旬にかけてマリーゴールドの株が枯死していき、見栄えが悪くなってしまった。そのため、委託の植え替え工が入る前に枯れた部分のみ直営で抜き取り、ダコニールを1000倍で散布した。

この枯れ込みは、葉に黒っぽい斑点が確認できたことから、斑点病ではないかと考えている（写真1）。また、それに加えて雨が続いたため、枯死した部分や弱った株が腐敗してしまった。これについては、株が成長して風通しが悪くなったことが原因と考えられるため、次年度は株間を5cm広げる予定である。

カスケード前花壇は、ベゴニア「ビッグ」シリーズとユーフォルビア「ダイヤモンドスノー」を植栽した。ベゴニア「ビッグ」シリーズは、特に問題なく生育したが、ユーフォルビア「ダイヤモンドスノー」は上手く活着しなかったり、雨の影響で枯死したりして、上手く育たない株がほとんどであった。本品種を鉢で栽培したものは順調に生育したため、花壇の土質や風通しの悪さ、ベゴニアの被圧などが影響していると考えられる。



写真1 マリーゴールド 発病株の葉の様子

レストラン前花壇については、昨年度ネモフィラの生育が悪かった場所を5月にバックホーを用いて深耕とバーク堆肥のすき込みを行い、水はけの改善を図った（図1）。

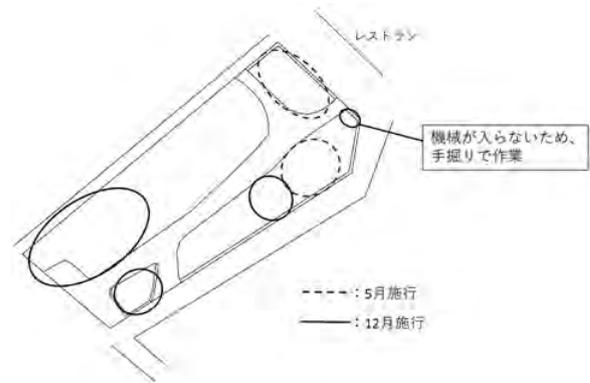


図1 レストラン前花壇 深耕作業場所

### 夏季（7月～9月上旬）

大花壇については、7月上旬に植え替えを行い、アンゲロニアとマツバボタンを植栽した。この花壇は病害虫の発生は特に無かったが、8月下旬頃からマツバボタンの調子が悪くなり始め、9月中旬には葉も花も減って茎が目立つようになった。また、手前に配置した紫のアンゲロニアが白のアンゲロニアより少し背が高くなったため、来年度は同様の品種と植栽間隔のまま白のアンゲロニアを手前にする予定である。

カスケード前花壇は、春から植え替えは行わず、ベゴニア「ビッグ」シリーズとユーフォルビア「ダイヤモンドスノー」の展示を続けた。

8月に入ってからは雨がほとんど降らなかったため、ベゴニア「ビッグ」は下から二段目の東側の部分の水切れが激しく、葉が落ちたり、巻いたりしてしまった。

大温室横花壇は、5月中旬頃に60cm間隔でラッカセイの苗を76株植え付けたが、8月中旬頃から一部の株に白絹病の発生が見られるようになった。発病株は速やかに抜き取り、周囲の土も花壇から持ち出して処分した。また、予防のためにアフェットフロアブルを2,000倍で散布した。なお、植え付けたもののうち70株程度は11月に無事に収穫期を迎えることができ、近隣の幼稚園児に収穫体験をしてもらった。

レストラン前花壇は、6月中旬に植え付けを行ったヒマワリ「サンフィニティー」が7月中

旬に一番花を開花させ、8月上旬に見頃を迎え、8月下旬には花がらが目立つようになった。元肥は、6月中旬に行う委託による耕耘が入る前に、1㎡当たり牛糞約400g、油かす約100g、ようりん約100gを散布し、追肥は、7月下旬と8月中旬に8-8-8を1㎡あたり100～150gとなるように施用した（表2）。

### 秋季（9月中旬～10月）

小花壇はテランセラ（*Alternanthera ficoidea*）と赤色のサルビア・スプレンドENS（品種不明）を植栽した。どちらも問題なく生育し、赤と黄色のコントラストが映える花壇となった。

カスケード前花壇は、9月中旬に植え替えを行い、アルテルナンテラ‘パープルプリンス’、ジニア「プロフェュージョン」シリーズの植栽となった。アルテルナンテラ‘パープルプリンス’は、葉色が植え付け時にはきれいな赤紫色であったが、1週間ほどすると緑になってしまった。これについては、生産地の方が当園より気温が低いことや、夜温が下がるようになると再び赤紫色に戻ったことから、高温によって葉色が変わってしまったと考えられる。

なお、大花壇・小花壇・カスケード前花壇は、いずれも植え付け後1週間程で8-8-8を追肥した。

レストラン前花壇は例年より約1週間遅い9月中旬にコスモス‘センセーション’を植え付け、4日後に補植と追肥を行った。追肥は、8-8-8を1㎡あたり60g程度となるように施用した（表2）。なお、前作の肥料が残存しているとの予想から、元肥の施用は行わなかった。また、10月25日に1株に1本ずつとなるよう支柱立てを行った。今年度は、コスモスの摘み取り体験が例年より遅くなったため、‘センセーション’の開花時期を少し遅らせようと播種時期・植え付け時期ともに遅くしたが、あまり変化せず、10月中旬には5分咲き、10月下旬～11月上旬に満開となった。コスモスの摘み取り体験は11月9日に実施した。当日の株の状態は、開花中・開花直前の花が合わせて5割程度残っており、新しい蕾はほとんど上がらないと思われる状態であったが、持ち帰って切り花にするには特に問題は無い様子であった。

なお、例年うどん粉病が多発していたが、今

回は薬剤の予防的散布に努め、委託と直営を合わせて4回（委託2回、自前2回）行ったことにより、うどん粉病の発生を抑えることが出来た。

### 冬季（11月～3月）

冬季は、例年通り「よく咲くスマレ」シリーズをメインにハボタン、シロタエギクも使用した。

「よく咲くスマレ」シリーズのうち、‘よく咲くスマレソーダ’は、他の色と比べて花数が多く、背丈も少し高めとなり、蒸れやすいことから灰色かび病等が発生しやすい。そこで、‘よく咲くスマレソーダ’に代わる色として新たに‘よく咲くスマレブルーフィズ’を導入した。また、使用できる色のレパトリーを増やすため‘よく咲くスマレカシス’も導入した。なお、花壇に使用した植物について、現時点（12月中旬）では病害虫等の問題は確認されていない。

レストラン前花壇については、5月の深耕に加えて12月上旬にもバックホーを用いて同様の作業を行い、前年度ネモフィラの生育が悪かった場所の水はけの改善を図った。なお、機械では深耕が難しい場所については、12月中旬に剣先スコップを用いて手掘りを行った（図1）。肥料に関しては、12月中旬に1㎡当たり牛糞約400g、油かす約200g、ようりん約100gを元肥として施用した。なお、本稿執筆年度のネモフィラについては、1月上旬にセルトレイ苗を植え付ける予定である（表2）。

